

統計からみた札幌市の高齢者

平成 20 年 9 月

札幌市市民まちづくり局企画部統計課

「敬老の日」(平成20年9月15日)を迎えるにあたって、「統計からみた札幌市の高齢者」について取りまとめましたので、その内容を紹介します。なお、ここでは、65歳以上の方を「高齢者」としています。

1 高齢者数

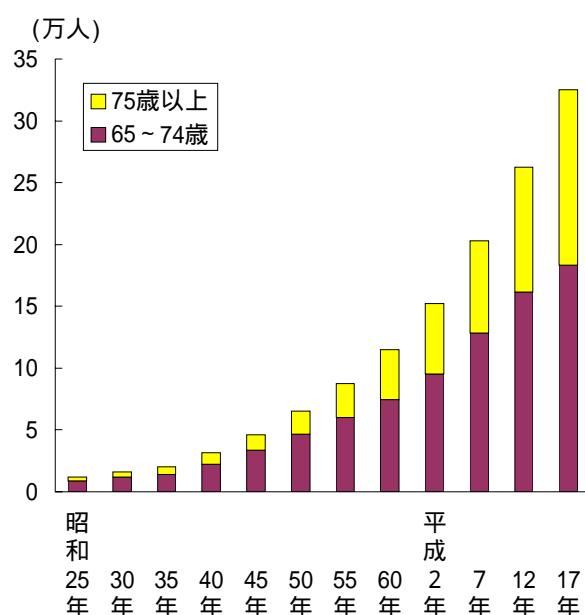
平成17年の高齢者数は325,401人と30万人を超え、過去最高を更新

国勢調査結果により、札幌市の高齢者数をみると、平成17年10月1日現在では325,401人で、総人口に占める割合は17.3%となっており、札幌市民の6人に1人が高齢者となっている。男女別にみると、男性は136,194人、女性は189,207人で、女性が男性を53,013人上回っており、男女それぞれの人口に占める割合をみると、男性は15.3%、女性は19.1%で、女性は5人に1人程度が高齢者となっている。また、年齢別にみると、65~74歳は183,177人(総人口の9.7%)、75歳以上は142,224人(7.6%)となっている。

高齢者数の推移をみると、昭和25年の11,712人以降増加が続き、60年は115,081人と10万人を超えた。その後も増加が続き、平成17年は初めて30万人を超えて、過去最高を更新した。

また、総人口に占める割合の推移をみると、昭和25年はわずか3.7%に過ぎなかったが、調査ごとに上昇傾向を示し、60年は7.5%と高齢化社会の目安とされる7%を超えた。その後、平成12年には14.4%と高齢社会の目安とされる14%を超え、17年は17.3%と高齢者の割合はさらに上昇を続けている。

第1図 高齢者数の推移
(各年10月1日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第1表 高齢者数の推移

年次	実 数				総人口に占める割合(%)				
	総数	性別		65~74歳	75歳以上	総数	性別割合		65~74歳
		男	女				男の人口に占める割合	女の人口に占める割合	
昭和25年	11,712	5,118	6,594	8,837	2,875	3.7	3.3	4.2	2.8
30年	16,155	6,985	9,170	11,700	4,455	3.8	3.2	4.3	2.7
35年	19,948	8,755	11,193	14,019	5,929	3.8	3.3	4.3	2.7
40年	31,338	14,023	17,315	22,509	8,829	3.9	3.5	4.4	2.8
45年	46,255	20,860	25,395	33,799	12,456	4.6	4.1	5.0	3.3
50年	65,274	29,090	36,184	46,805	18,469	5.3	4.7	5.8	3.8
55年	87,440	38,485	48,955	60,037	27,403	6.2	5.6	6.9	4.3
60年	115,081	49,164	65,917	74,460	40,621	7.5	6.5	8.3	4.8
平成2年	152,053	63,450	88,603	95,411	56,642	9.1	7.8	10.3	5.7
7年	202,897	85,556	117,341	128,517	74,380	11.5	10.1	12.8	7.3
12年	262,751	111,203	151,548	161,336	101,415	14.4	12.8	15.9	8.9
17年	325,401	136,194	189,207	183,177	142,224	17.3	15.3	19.1	9.7

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

2 高齢者の転出入状況

転出者数の減少により高齢者の転入超過数は拡大傾向で推移

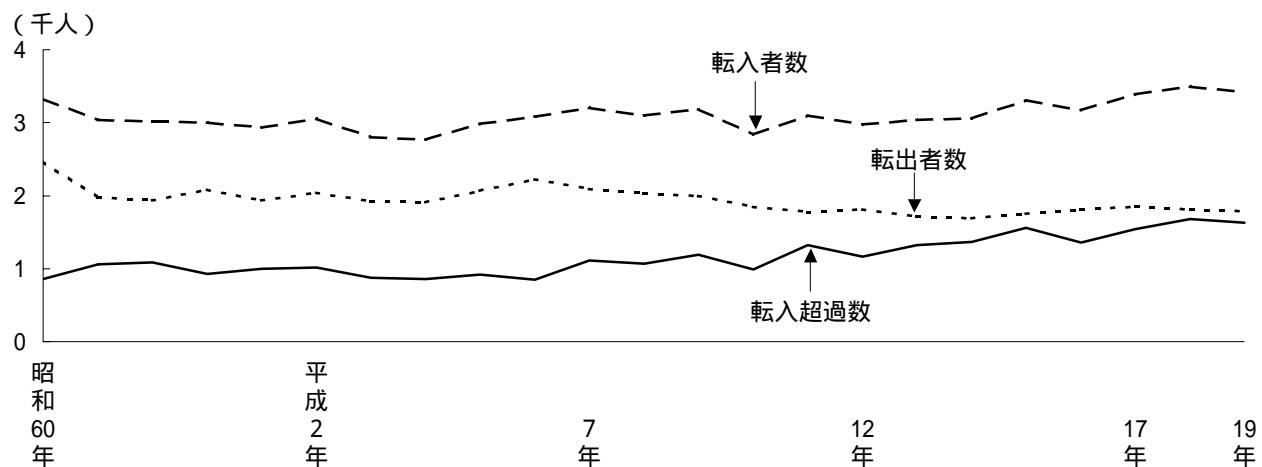
住民基本台帳により高齢者の市外との転出入状況についてみると、平成19年中は、転入者数は3,410人、転出者数は1,783人で、1,627人の転入超過となっている。

道内・道外別にみると、道内は、転入者が2,715人、転出者が1,037人で、1,678人の転入超過となっている。一方、道外は、転入者が695人、転出者が746人で、51人の転出超過となっている。

推移をみると、転入者数は、平成4年の2,768人を底として緩やかな増加傾向で推移しており、19年は、18年に次いで2番目に多くなっている。一方、転出者数は、昭和60年の2,465人以降、緩やかではあるが減少傾向で推移している。このような結果、転入超過数は拡大傾向で推移している。

転入超過数を道内・道外別にみると、道外との関係では、平成16年以降はわずかではあるが転出超過で推移している。一方、道内との関係では転出者数の減少により拡大傾向で推移している。

第2図 高齢者の市外との転入・転出状況の推移（各年中）



注： 第2表参照。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第2表 高齢者の市外転入・転出状況の推移

住民基本台帳による。

年次	転入者数			転出者数			転入超過数			各年中		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
平成2年	3,054	2,410	644	2,042	1,495	547	1,012	915	97	1,012	915	97
3年	2,798	2,185	613	1,924	1,408	516	874	777	97	874	777	97
4年	2,768	2,182	586	1,907	1,385	522	861	797	64	861	797	64
5年	2,987	2,356	631	2,070	1,530	540	917	826	91	917	826	91
6年	3,077	2,458	619	2,226	1,617	609	851	841	10	851	841	10
7年	3,200	2,523	677	2,092	1,492	600	1,108	1,031	77	1,108	1,031	77
8年	3,100	2,429	671	2,032	1,368	664	1,068	1,061	7	1,068	1,061	7
9年	3,184	2,509	675	1,996	1,390	606	1,188	1,119	69	1,188	1,119	69
10年	2,837	2,195	642	1,844	1,140	704	993	1,055	62	993	1,055	62
11年	3,097	2,399	698	1,775	1,127	648	1,322	1,272	50	1,322	1,272	50
12年	2,980	2,279	701	1,812	1,152	660	1,168	1,127	41	1,168	1,127	41
13年	3,039	2,378	661	1,713	1,045	668	1,326	1,333	7	1,326	1,333	7
14年	3,054	2,369	685	1,691	966	725	1,363	1,403	40	1,363	1,403	40
15年	3,307	2,575	732	1,748	1,018	730	1,559	1,557	2	1,559	1,557	2
16年	3,165	2,491	674	1,810	1,041	769	1,355	1,450	95	1,355	1,450	95
17年	3,389	2,653	736	1,849	1,081	768	1,540	1,572	32	1,540	1,572	32
18年	3,492	2,781	711	1,811	1,098	713	1,681	1,683	2	1,681	1,683	2
19年	3,410	2,715	695	1,783	1,037	746	1,627	1,678	51	1,627	1,678	51

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

3 高齢者の就業状態

高齢有業者は平成 19 年に 5 万人を超えた

就業構造基本調査より平成 19 年の高齢者のふだんの就業状態をみると、就業している者（高齢有業者）は 51,200 人で、全体の 14.6% を占めている。

有業者の推移をみると、昭和 57 年の 20,000 人から増加傾向で推移し、平成 19 年は初めて 5 万人を超えた。一方、高齢者総数に占める割合の推移をみると、昭和 57 年は 20.4% と 2 割を占めていたが、その後は低下傾向で推移している。

高齢有業者は「サービス業（他に分類されないもの）」に従事するものが最も多い

高齢有業者を産業別にみると、ビルの清掃・保守などの建物サービス業などが含まれる「サービス業（他に分類されないもの）」が 9,600 人で最も多く、割合も高齢有業者の 18.8% を占めている。以下、「卸売・小売業」が 8,200 人（高齢有業者の 16.0%）、アパート管理人等の「不動産業」が 8,100 人（15.8%）、「建設業」及び「飲食店、宿泊業」が 4,300 人（8.4%）などとなっている。

男女別にみると、男性は、「サービス業（他に分類されないもの）」が 6,300 人（男性の 18.8%）で最も多く、以下、「卸売・小売業」が 5,100 人（15.2%）、「不動産業」が 4,500 人（13.4%）、「建設業」が 3,800 人（11.3%）などとなっている。

女性は、「不動産業」が 3,600 人（女性の 20.5%）で最も多く、以下、「サービス業（他に分類されないもの）」が 3,300 人（18.8%）、「飲食店・宿泊業」が 3,200 人（18.2%）、「卸売・小売業」が 3,100 人（17.6%）などとなっている。

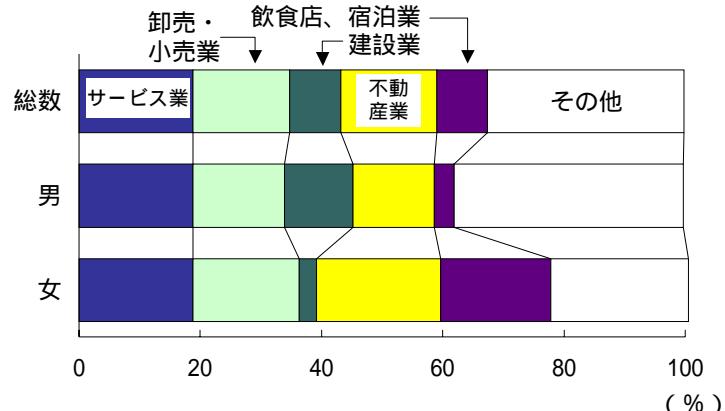
男女を比較すると、男性は「建設業」が高く、女性は「飲食店、宿泊業」が高くなっている。

第 3 表 就業状態別高齢者の推移

年 次	就業状態		各年10月1日現在		
	総 数	有業者	無業者	有業者	無業者
昭和57年	98,000	20,000	77,000	20.4	78.6
62年	99,000	17,000	82,000	17.2	82.8
平成 4 年	172,000	31,000	141,000	18.0	82.0
9年	221,000	36,000	184,000	16.3	83.3
14年	289,400	42,200	247,300	14.6	85.5
19年	350,600	51,200	299,400	14.6	85.4

<資料> 総務省統計局「就業構造基本調査」

第 3 図 高齢者の産業（大分類）、男女別有業者割合（平成 19 年 10 月 1 日現在）



<資料> 総務省統計局「就業構造基本調査」

第 4 表 高齢者の産業（大分類）別有業者割合

産業（大分類）	実 数			割 合 (%)		
	総 数	男	女	総 数	男	女
農林漁業	51,200	33,600	17,600	100.0	100.0	100.0
鉱業	-	-	-	-	-	-
建設業	4,300	3,800	500	8.4	11.3	2.8
製造業	2,400	2,400	-	4.7	7.1	-
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-
情報通信業	500	500	-	1.0	1.5	-
運輸業	2,300	2,100	200	4.5	6.3	1.1
卸売・小売業	8,200	5,100	3,100	16.0	15.2	17.6
金融・保険業	900	900	-	1.8	2.7	-
不動産業	8,100	4,500	3,600	15.8	13.4	20.5
飲食店・宿泊業	4,300	1,100	3,200	8.4	3.3	18.2
医療・福祉	3,800	2,800	1,000	7.4	8.3	5.7
教育・学習支援業	2,900	1,200	1,700	5.7	3.6	9.7
複合サービス事業	200	200	-	0.4	0.6	-
サービス業 (他に分類されないもの)	9,600	6,300	3,300	18.8	18.8	18.8
公務 (他に分類されないもの)	400	200	200	0.8	0.6	1.1

注：1) 分類不能の産業を含む。

<資料> 総務省統計局「就業構造基本調査」

4 高齢世帯の概況

高齢親族のいる一般世帯は 25 年間で 3 倍以上に増加

平成 17 年の高齢親族のいる一般世帯は 216,507 世帯で、一般世帯総数の 26.0% を占めており、4 世帯に 1 世帯が高齢親族のいる世帯となっている。

推移をみると、昭和 55 年は 64,693 世帯で、一般世帯に占める割合も 12.8% に過ぎなかったが、その後は増加が続き、平成 2 年は 105,537 世帯 (16.5%) と 10 万世帯、17 年は 216,507 世帯と 20 万世帯を超え、この 25 年間で 3 倍以上に増加している。

25 年間で高齢夫婦世帯は 5 倍以上、単独世帯は 7 倍以上に増加

高齢親族のいる一般世帯を主な家族類型

別にみると、「核家族世帯」が 121,800 世帯(一般世帯の 14.6%)、「単独世帯」が 61,584 世帯(7.4%) となっている。「核家族世帯」の内訳をみると、「夫婦のみ」の世帯が 75,277 世帯 (9.0%) で、そのうち「高齢夫婦世帯」(夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組の一般世帯) は 70,002 世帯 (8.4%) となっている。

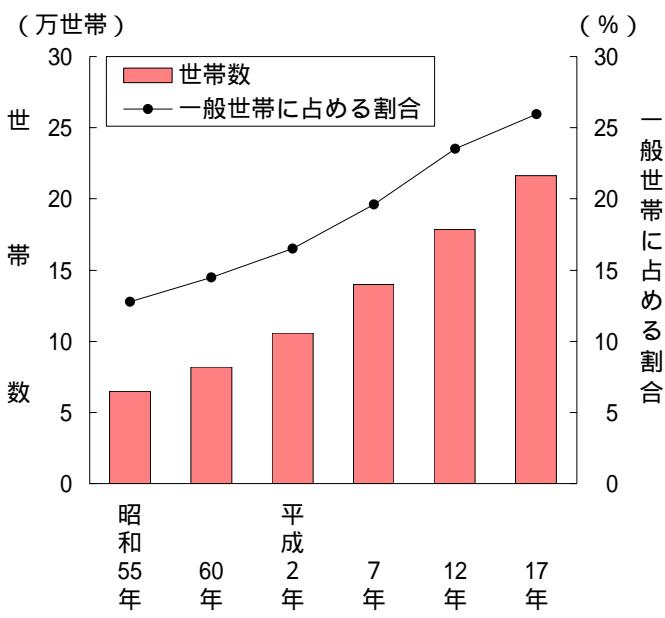
「高齢夫婦世帯」と「単独世帯」の推移をみると、「高齢夫婦世帯」は、昭和 55 年の 13,089 世帯以降一貫して増加が続き、平成 17 年は昭和 55 年の 5 倍以上となっている。また、「単独世帯」は、昭和 55 年の 8,747 世帯以降一貫して増加が続き、平成 17 年は 6 万人を超える、この 25 年間で 7 倍以上に増加している。

第 5 表 世帯の家族類型別高齢親族のいる一般世帯数の推移

年 次	総 数	親 族 世 帯							各年10月1日現在	
		総 数	核 家 族 世 帯				その他の親族世帯	非 親 族 世 帯	単独世帯	
			総 数	夫婦のみ	うち高齢夫婦世帯	夫婦と子供				
実										
昭和55年	64,693	55,859	26,859	15,946	13,089	6,120	4,793	29,000	87	8,747
60年	81,794	69,018	35,873	22,358	19,247	7,196	6,319	33,145	102	12,674
平成 2年	105,537	85,192	50,651	32,485	28,864	9,504	8,662	34,541	52	20,293
7年	139,810	108,901	73,128	47,612	43,078	13,713	11,803	35,773	137	30,772
12年	178,655	131,887	97,962	62,780	57,562	19,321	15,861	33,925	204	46,564
17年	216,507	154,420	121,800	75,277	70,002	25,205	21,318	32,620	503	61,584
一般世帯に占める割合 (%)										
昭和55年	12.8	11.0	5.3	3.2	2.6	1.2	0.9	5.7	0.0	1.7
60年	14.5	12.2	6.4	4.0	3.4	1.3	1.1	5.9	0.0	2.2
平成 2年	16.5	13.3	7.9	5.1	4.5	1.5	1.4	5.4	0.0	3.2
7年	19.6	15.3	10.2	6.7	6.0	1.9	1.7	5.0	0.0	4.3
12年	23.5	17.4	12.9	8.3	7.6	2.5	2.1	4.5	0.0	6.1
17年	26.0	18.5	14.6	9.0	8.4	3.0	2.6	3.9	0.1	7.4

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第 4 図 高齢親族のいる一般世帯数及び一般世帯に占める割合の推移
(各年10月1日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

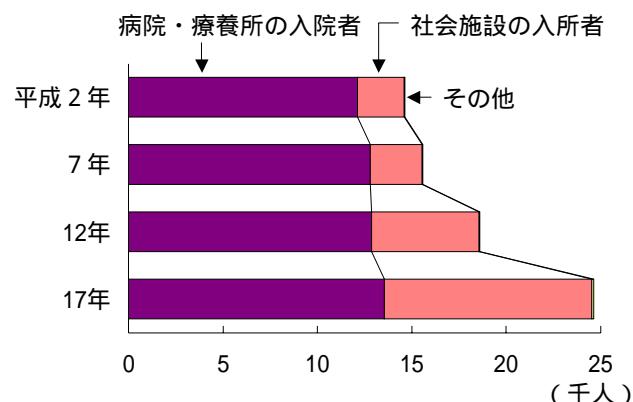
「社会施設の入所者」は1万人を超える
平成17年の高齢者のうち、施設等の入所者
数をみると24,626人で、高齢者数の7.6%を
占めている。男女別にみると、男性が7,106
人（男性高齢者数の5.2%）、女性が17,520
人（女性高齢者数の9.3%）となっており、
女性が男性を1万人余り上回っている。施設
等の入所者の内訳をみると、「病院・療養所の
入院者」は13,559人、老人ホームなどの「社
会施設の入所者」は10,974人となっている。

施設等の入所者の推移をみると、平成2年の
14,638人以降増加が続き、17年までに1
万人程度増加した。このうち、「病院・療養所
の入院者」は、2年以降増加を続けているも
のの、その増加数も1千人程度の増加とわず
かなものにとどまっている。一方、「社会施設
の入所者」は、2年の2,489人以降増加が続
き、12年には介護保険制度が導入されたこと
に伴い5,670人と5千人を超えた。17年は、
高齢化が進んだことや介護保険関連施設の増
加などの影響で「社会施設の入所者」はさら
に増加し1万人を超えた。

85歳以上の女性の3人に1人が施設等で
生活

年齢階級別に高齢者に占める施設等の入所
者の割合をみると、65～74歳は2.7%と割合
は低くなっているが、年齢が高くなるにした
がって、施設等で暮らす割合が高くなり、85
歳以上は29.6%と3割となっている。男女を
比べると、女性は男性に比べて割合が高く、
特に85歳以上では33.8%と3人に1人が施
設等で生活している。

第5図 施設等の世帯の高齢人口の推移
(各年10月1日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第6表 施設等の世帯の高齢者数

年次	総数			病院・ 療養所の 入院者	社会施設 の入所者	その他	各年10月1日現在
	総数	男	女				
平成2年	14,638	4,744	9,894	12,124	2,489	25	
7年	15,592	4,591	11,001	12,809	2,755	28	
12年	18,614	5,443	13,171	12,881	5,670	63	
17年	24,626	7,106	17,520	13,559	10,974	93	

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第7表 年齢別施設等の世帯の高齢者数

年齢	施設等の入所者			高年齢人口に 占める割合(%)			平成17年10月1日現在
	総数	男	女	総数	男	女	
総数	24,626	7,106	17,520	7.6	5.2	9.3	
65～74歳	4,930	2,360	2,570	2.7	2.8	2.6	
75～84	9,412	2,854	6,558	8.8	6.6	10.2	
85歳以上	10,284	1,892	8,392	29.6	19.0	33.8	

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

5 高齢世帯の住居

高齢親族のいる一般世帯の7割以上は「持ち家」に居住

平成17年の高齢親族のいる一般世帯について住宅の所有の関係別にみると、「持ち家」は157,510世帯で全体の73.0%を占めて最も多く、以下、「民営の借家」が38,818世帯(18.0%)、「公営の借家」が11,929世帯(5.5%)などとなっている。一般世帯と比べると、「持ち家」の割合が高く、「民営の借家」の割合が低くなっている。

高齢夫婦世帯をみると、「持ち家」は57,067世帯と、高齢夫婦世帯の8割を占めているが、「民営の借家」は7,131世帯とわずか1割に過ぎない。

高齢単身世帯は、「持ち家」が32,249世帯と、高齢単身世帯の5割以上を占めて最も多く、次いで「民営の借家」が19,884世帯(32.5%)と続いている。

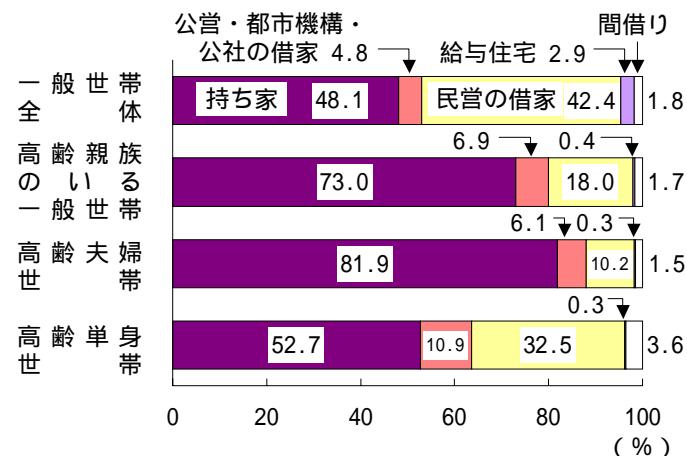
それを比較すると、「持ち家」は、高齢親族のいる一般世帯や高齢夫婦世帯では7割以上を占めて高くなっているが、高齢単身世帯は5割と低くなっている。

一方、「民営の借家」は、高齢単身世帯は3割を占めているが、高齢親族のいる一般世帯では2割程度、高齢夫婦世帯は1割と低くなっている。

市内住宅の3割が高齢者等に配慮した設備(バリアフリー設備)を設置

平成15年住宅・土地統計調査結果から、高齢者等に配慮した設備(バリアフリー設備)のある住宅の割合をみると31.2%で、市内住宅の3割にバリアフリー設備が設置されている。内訳をみると、「手すりがある」が22.9%、「またぎやすい高さの浴槽」が12.7%、「段差のない屋内」が12.0%、「廊下などの幅が車椅子で通行可能」が10.2%などとなっている。

第6図 高齢者世帯の住宅の所有の関係別割合
(平成17年10月1日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第8表 高齢者世帯の住宅の所有の関係別住宅に住む一般世帯数

住宅の所有の関係	一般世帯	平成17年10月1日現在		
		高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身世帯
		実 数		
住宅に住む一般世帯	826,479	215,622	69,663	61,138
持ち家	397,824	157,510	57,067	32,249
公営の借家	30,645	11,929	3,420	5,242
都市機構・公社の借家	9,062	2,956	799	1,419
民営の借家	350,281	38,818	7,131	19,884
給与住宅	24,129	757	187	173
間借り	14,538	3,652	1,059	2,171
		割 合 (%)		
住宅に住む一般世帯	100.0	100.0	100.0	100.0
持ち家	48.1	73.0	81.9	52.7
公営の借家	3.7	5.5	4.9	8.6
都市機構・公社の借家	1.1	1.4	1.1	2.3
民営の借家	42.4	18.0	10.2	32.5
給与住宅	2.9	0.4	0.3	0.3
間借り	1.8	1.7	1.5	3.6

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第9表 高齢者等のための設備状況別住宅数

設備の内訳は、複数回答であるため、内訳の合計とは必ずしも一致しない。

高齢者等のための設備状況	実数	割合(%)	平成15年10月1日現在
			総数
高齢者等のための設備がある	239,300	31.2	767,800
手すりがある	175,600	22.9	
またぎやすい高さの浴槽	97,800	12.7	
段差のない屋内	92,100	12.0	
廊下などの幅が車椅子で通行可能	78,600	10.2	
道路から玄関まで車椅子で通行可能	66,900	8.7	
高齢者等のための設備はない	505,100	65.8	

注：1) 高齢者等のための設備状況「不詳」を含む。

<資料> 総務省統計局「住宅・土地統計調査」

6 高齢者の暮らし

高齢者の余暇活動時間は1日の3分の1を超える

平成18年社会生活基本調査より、高齢者の1日の生活時間を見ると、退職などにより仕事時間が短く、余暇時間が長くなっている。

余暇活動などの3次活動時間みると、9時間9分となっており、年齢別にみると、「65~74歳」が8時間33分、「75歳以上」が9時間53分と、共に1日の3分の1を超えていている。

3次活動時間を男女別にみると、男性は10時間17分で、そのうち「65~74歳」は9時間38分、「75歳以上」は11時間4分となっており、年齢が高いほど3次活動時間も長くなっている。

女性は8時間6分で、そのうち「65~74歳」は7時間34分、「75歳以上」は8時間45分となっており、男性同様に年齢が高いほど3次活動時間も長くなっている。

高齢者のおよそ6人に1人がインターネットを利用

高齢者の中、過去1年間(平成17年10月20日~18年10月19日)にインターネットを利用した人の割合(行動者率)は15.8%で、およそ6人に1人が利用している。

行動者率を男女別にみると、男性は22.2%、女性は10.2%で、男性は女性の2倍以上となっている。

インターネット利用の種類別にみると、「電子メール」が13.1%で最も高く、以下、「情報検索及びニュース等の情報入手」が6.4%、「商品やサービスの予約・購入、支払などの利用」が4.1%などとなっている。

第10表 高齢者の1日の生活時間

年 齢	1 次 活 動	睡 眠	2 次 活 動	仕 事	家 事 関 連	3 次 活 動	平成18年	
							総 数	休養等 自由時 間活動
総 数								
総 数	11.28	8.25	3.23	0.49	2.28	9.09	5.54	1.39
65 ~ 74 歳	11.11	8.08	4.17	1.29	2.37	8.33	5.10	1.48
75 歳 以 上	11.49	8.46	2.18	0.00	2.17	9.53	6.48	1.28
男								
総 数	11.31	8.36	2.11	1.10	0.54	10.17	6.29	2.09
65 ~ 74 歳	11.22	8.22	3.01	2.09	0.37	9.38	5.50	2.17
75 歳 以 上	11.43	8.52	1.14	0.00	1.13	11.04	7.15	2.01
女								
総 数	11.25	8.15	4.29	0.29	3.56	8.06	5.22	1.11
65 ~ 74 歳	11.01	7.55	5.25	0.53	4.26	7.34	4.35	1.23
75 歳 以 上	11.55	8.40	3.20	0.01	3.19	8.45	6.22	0.56

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

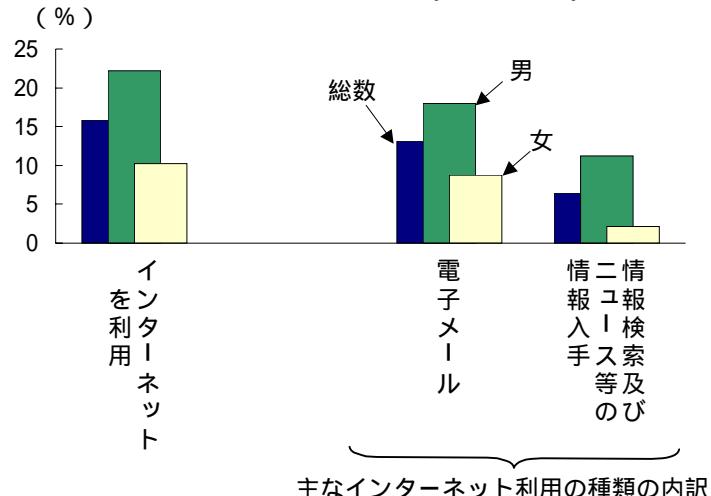
第11表 高齢者のインターネット利用の種類、男女別行動者率

インターネット利用の種類の内訳は、複数回答であるため、内訳の合計とは必ずしも一致しない。

インター ネット 利用 の 種 類	総 数	平成18年	
		男	女
総 数	15.8	22.2	10.2
電 子 メ ー ル	13.1	18.0	8.8
掲 示 板 ・ チ ャ ッ ト	0.2	0.5	-
ホ ー ム ペ ー ジ ・ ブ ロ グ の 開 設 ・ 新 更新	-	-	-
情 報 検 索 及 び ニ ュ ー ス 等 の 情 報 入 手	6.4	11.3	2.1
画 像 ・ 動 画 ・ 音 楽 デ ー テ ハ 、 软 フ ウ ウ エ の 入 手	2.5	4.4	0.9
商 品 や サ ー ビ ス の 預 約 ・ 購 入 、 支 払 な ど の 利 用	4.1	6.4	2.0
そ の 他	3.9	6.1	2.0

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

第7図 男女、主なインターネット利用の種類別行動者率(平成18年)



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

高齢者のおよそ2人に1人が「園芸・庭いじり・ガーデニング」を行っている

高齢者の中、過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人の行動者率は78.8%で、男女別にみると、男性が82.0%、女性が76.0%で、男性が女性より6ポイント高くなっている。

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が45.1%で最も高く、高齢者のおよそ2人に1人が「園芸・庭いじり・ガーデニング」を行っている。

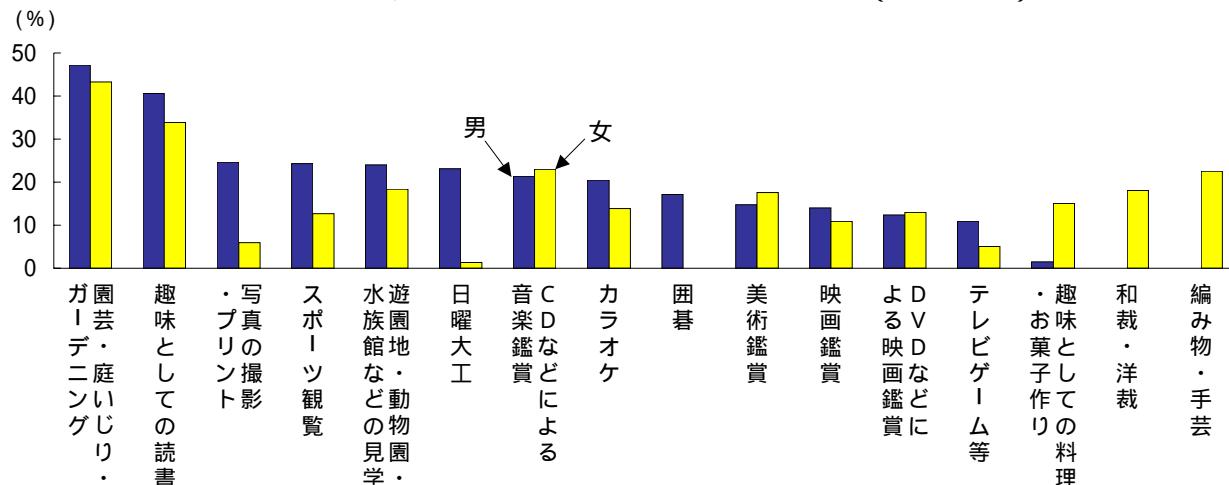
男女別にみると、男女とも「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高く、次いで「趣味としての読書」となっている。男女によって行動者率に違いがみられる「趣味・娯楽」をみると、男性は、「写真の撮影・プリント」や「スポーツ観覧」、「日曜大工」などが高く、女性は「編み物・手芸」や「和裁・洋裁」、「趣味としての料理・お菓子作り」などが高くなっている。

「国内観光旅行」をした高齢者の行動者率は女性が男性を上回る

高齢者の中、過去1年間に「国内観光旅行」を行った人の行動者率は46.6%、「海外観光旅行」を行った人の行動者率は8.3%となっている。

男女別にみると、「国内観光旅行」は、男性が46.0%、女性が47.2%で、女性が男性より1.2ポイント高くなっている。一方、「海外観光旅行」では、男性が9.3%、女性が7.4%で、男性が女性より1.9ポイント高くなっている。

第8図 男女、主な趣味・娯楽の種類別行動者率(平成18年)



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

第12表 高齢者の主な趣味・娯楽の種類、男女別行動者率

趣味・娯楽の種類	総数	平成18年	
		男	女
総	78.8	82.0	76.0
園芸・庭いじり・ガーデニング	45.1	47.1	43.3
趣味としての読書	37.1	40.6	33.9
スポーツ観覧	18.1	24.3	12.6
写真の撮影・プリント	14.7	24.6	6.0
編み物・手芸	11.9	-	22.5
日曜大工	11.6	23.1	1.4
和裁・洋裁	9.6	-	18.1
趣味としての料理・お菓子作り	8.7	1.4	15.1

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

第13表 高齢者の国内・海外観光旅行の男女別行動者率

区分	総数	平成18年	
		男	女
国内観光	46.6	46.0	47.2
海外観光	8.3	9.3	7.4

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課「社会生活基本調査」

7 各区の高齢者

平成 17 年の総人口に占める高齢者の割合は南区が 20.6% で最も高い

国勢調査より各区の高齢者数をみると、北区が 46,357 人で最も多く、以下、東区が 41,129 人、西区が 37,510 人、豊平区が 36,026 人と続き、清田区が 17,777 人で最も少なくなっている。

各区の総人口に占める割合をみると、南区が 20.6% で最も高く、5 人に 1 人が高齢者となっている。以下、西区が 18.1%、厚別区と手稲区が 17.7%、中央区が 17.3% と続き、清田区が 15.8% で最も低くなっている。

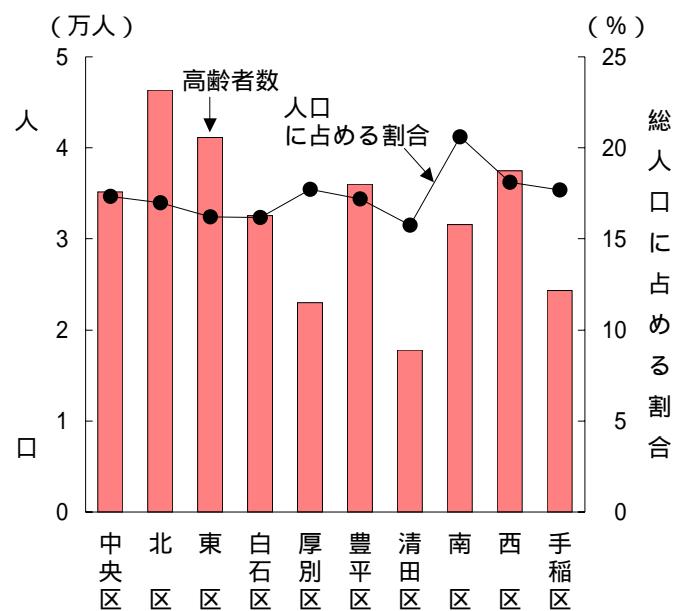
男女それぞれの人口に占める割合をみると、男性は、南区が 18.5% で最も高く、以下、厚別区が 16.4%、西区が 16.3%、手稲区が 15.5% と続き、東区と清田区が 14.1% で最も低くなっている。

女性も、南区が 22.5% で最も高く、以下、西区と手稲区が 19.7%、中央区と豊平区が 19.2% と続き、清田区が 17.3% で最も低くなっている。

各区の総人口に占める年齢別割合をみると、「65~74 歳」は、南区が 11.6%、厚別区が 10.4%、西区が 10.3% と、この 3 区で 1 割を超えており。一方、清田区では 8.9% で最も低くなっている。

「75 歳以上」は、南区が 9.0% で最も高く、以下、手稲区が 8.3%、中央区が 8.1%、西区が 7.8% と続き、白石区が 6.8% で最も低くなっている。

第 9 図 各区の高齢者数及び総人口に占める割合
(平成 17 年 10 月 1 日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第14表 各区の高齢者人口

区	実 数			各 区 の 総 人 口 に 占 め る 割 合 (%)						
	総 数	男	女	65 ~ 74 歳	75 歳 以 上	総 数	男の人口に占める割合	女の人口に占める割合	65 ~ 74 歳	75 歳 以 上
全 市	325,401	136,194	189,207	183,177	142,224	17.3	15.3	19.1	9.7	7.6
中 央 区	35,156	13,615	21,541	18,660	16,496	17.3	15.0	19.2	9.2	8.1
北 区	46,357	19,628	26,729	26,310	20,047	17.0	15.1	18.7	9.6	7.3
東 区	41,129	17,342	23,787	23,241	17,888	16.2	14.1	18.1	9.2	7.0
白 石 区	32,567	13,806	18,761	18,798	13,769	16.2	14.3	17.9	9.3	6.8
厚 別 区	23,010	9,880	13,130	13,522	9,488	17.7	16.4	18.9	10.4	7.3
豊 平 区	36,026	14,853	21,173	20,522	15,504	17.2	15.0	19.2	9.8	7.4
清 田 区	17,777	7,596	10,181	10,051	7,726	15.8	14.1	17.3	8.9	6.9
南 区	31,541	13,418	18,123	17,789	13,752	20.6	18.5	22.5	11.6	9.0
西 区	37,510	15,861	21,649	21,400	16,110	18.1	16.3	19.7	10.3	7.8
手 稲 区	24,328	10,195	14,133	12,884	11,444	17.7	15.5	19.7	9.4	8.3

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

高齢夫婦世帯割合及び高齢単身世帯割合はともに南区が最も高い

区別に、一般世帯に占める高齢親族のいる割合をみると、南区が32.3%と3割を超えて最も高く、以下、厚別区が29.5%、手稲区が29.3%、清田区が28.1%と続き、中央区が22.1%で最も低くなっている。

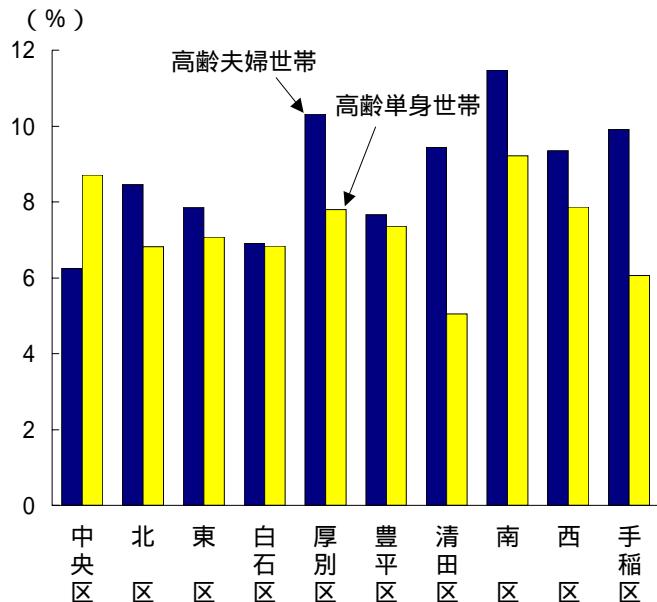
一般世帯に占める高齢夫婦世帯割合をみると、南区が11.5%で最も高く、以下、厚別区が10.3%、手稲区が9.9%、清田区と西区が9.4%と続き、中央区が6.2%で最も低くなっている。

一般世帯に占める高齢単身世帯割合をみると、南区が9.2%で最も高く、以下、中央区が8.7%、西区が7.9%、厚別区が7.8%と続き、清田区が5.0%で最も低くなっている。

中央区は高齢親族のいる一般世帯のうち4割が高齢単身世帯

高齢親族世帯に占める高齢単身世帯の割合をみると、中央区が39.3%で最も高く、中央区の高齢親族のいる一般世帯の4割が高齢単身世帯となっている。以下、豊平区が30.5%、白石区が29.9%、南区が28.6%、東区が28.5%などとなっている。一方、清田区は17.9%と20%を割って最も低く、手稲区も20.6%と低くなっている。

第10図 区別一般世帯に占める高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯割合
(平成17年10月1日現在)



<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第15表 区別高齢者世帯

区	世帯数			一般世帯に占める割合(%)			平成17年10月1日現在	
	一般世帯	高齢親族のいる一般世帯		高齢夫婦世帯	高齢単身世帯	高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身世帯
		高齢親族のいる一般世帯	高齢夫婦世帯					
全市	833,796	216,507	70,002	61,584	26.0	8.4	7.4	28.4
中央区	106,107	23,496	6,629	9,245	22.1	6.2	8.7	39.3
北区	120,658	31,277	10,206	8,225	25.9	8.5	6.8	26.3
東区	113,193	28,069	8,876	8,012	24.8	7.8	7.1	28.5
白石区	95,898	21,870	6,612	6,549	22.8	6.9	6.8	29.9
厚別区	51,581	15,203	5,323	4,020	29.5	10.3	7.8	26.4
豊平区	101,265	24,480	7,751	7,460	24.2	7.7	7.4	30.5
清田区	40,089	11,273	3,780	2,020	28.1	9.4	5.0	17.9
南区	63,994	20,663	7,349	5,900	32.3	11.5	9.2	28.6
西区	89,695	25,120	8,392	7,048	28.0	9.4	7.9	28.1
手稲区	51,316	15,056	5,084	3,105	29.3	9.9	6.1	20.6

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

8 まちづくりセンター別の高齢者

平成12年と比べて17年は、中心部で高齢親族のいる一般世帯割合が20%未満のまちづくりセンターが多くみられる

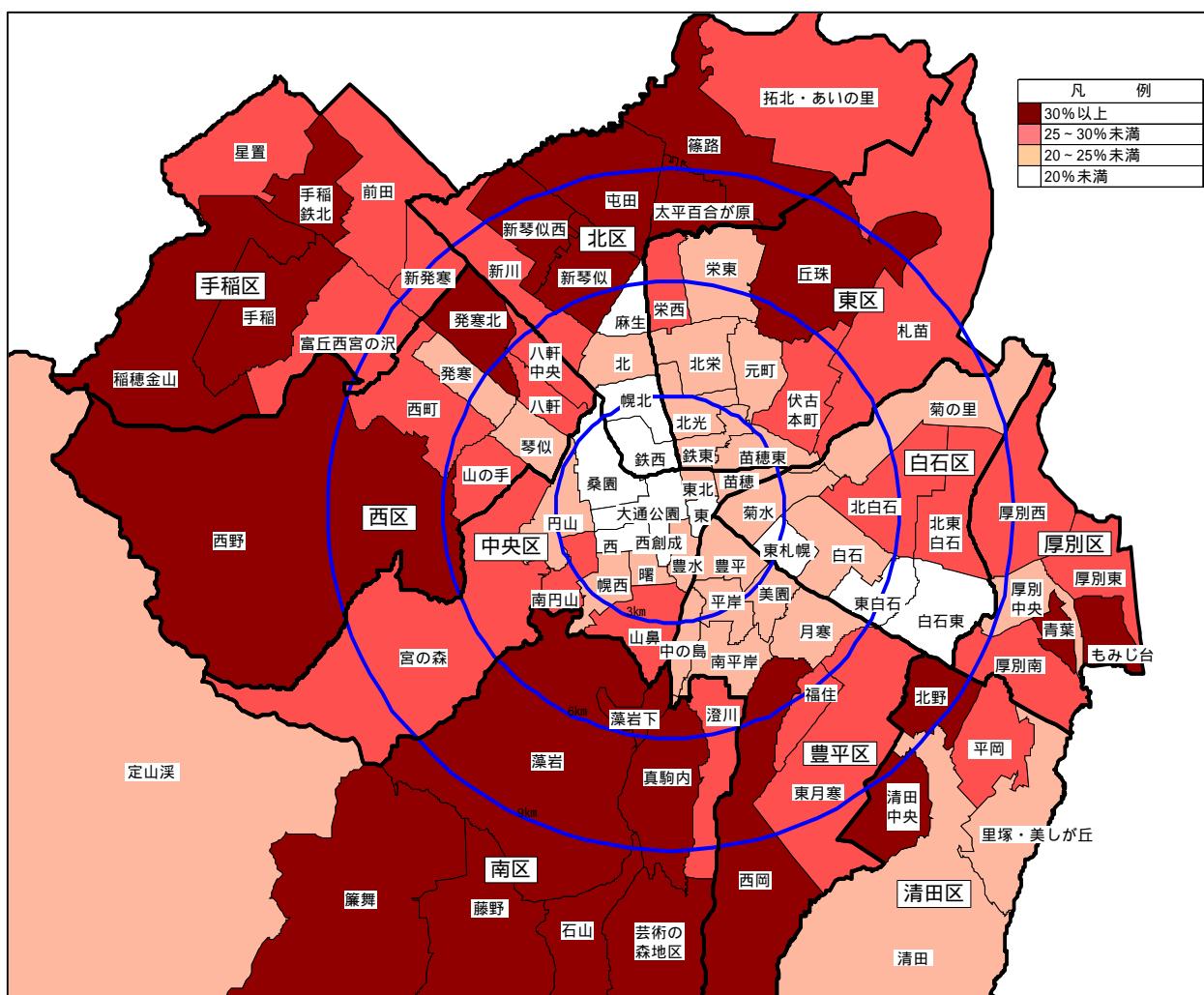
平成17年国勢調査結果より、まちづくりセンター別に高齢親族のいる一般世帯割合をみると、中心部に20%未満のまちづくりセンターが多くみられ、逆に、中心部から離れた地域で、30%以上のまちづくりセンターが多くみられる。

12年と比較すると、17年は、中心から6km以上で、かつての新興住宅地を抱える地域で30%以上のまちづくりセンターが多くみられるようになった。

一方、中心部では20%未満のまちづくりセンターが多くなっているが、これは、都心回帰現象によって、中心部に若い世代が多く流入していることによるものと思われる。

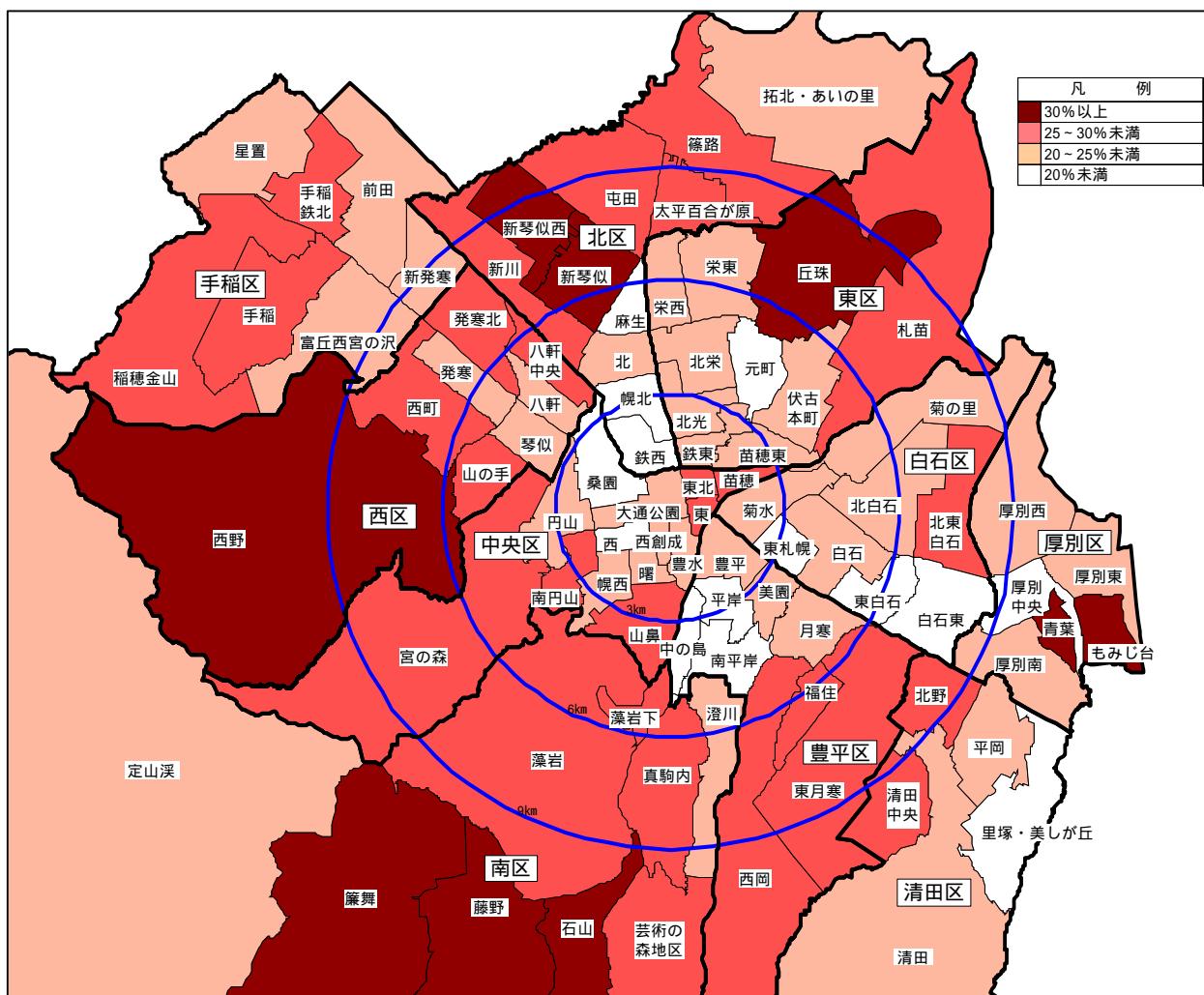
また、南区をみると、12年は、高齢親族のいる一般世帯割合が30%以上となっているのは、石山、藤野及び簾舞まちづくりセンターのみであったが、17年は、澄川及び定山渓まちづくりセンターを除くすべてのまちづくりセンターで30%以上となっており、高齢化がより進んでいることがわかる。

第11図 まちづくりセンター別高齢親族のいる一般世帯割合（平成17年10月1日現在）



注：一般世帯総数に占める割合である。

第12図 まちづくりセンター別高齢親族のいる一般世帯割合（平成12年10月1日現在）



注：一般世帯総数に占める割合である。